

昭島市立昭和中学校 令和5年度 学校経営方針

令和5年4月3日
昭島市立昭和中学校長 長野 基

I 教育目標

- 一 自ら考え、ともに学び、積極的に行動する生徒
- 一 互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒
- 一 心身ともに健康な生徒

II 目指す学校像

「ハートフル・昭和」～生徒にとって楽しく生き甲斐のある学びの場～としての学校の実現を図る。

- | | |
|---------------|--|
| 1 確かな学力 | 生徒にとって「進歩や成長を実感できる場」であること |
| 2 豊かな心・たくましい体 | 生徒が「生き生きと自己実現できる場」であること |
| 3 輝く未来 | 生徒が将来に向かって「夢や希望をはぐくむ場」であること
生徒が「安心して安全に生活できる場」であること |

○ 通ってよかった学校 ○ 通わせてよかった学校 ○ 明日が楽しみな学校

III 学校経営の基本方針

学校経営は、教育目標の実現を目指し、生徒の指導上の課題を明確にして、教育活動を工夫していくことが大切である。昨年度までの3年間は、新型コロナウイルス感染症への対応に向けた様々な教育活動の変更を余儀なくされる中で学校経営を進めてきた。学校生活においては、安全・安心の確保は言うまでもなく、Withコロナの意識をもって、これからの社会に生きる生徒を育成することが求められている。昭和中では生徒の基礎学力や体力の向上、豊かな心の育成を目指し、生徒に潜在する力を引き出し伸ばすことを意識しながら、主体性と思いやりの心を育てる指導を一層、推進していく。一方、GIGAスクール構想に基づいた一人一台のタブレット端末を中心としたICTを活用した教育活動は、生徒の主体的な学びの保障とともに、その多様な機能の活用によって様々な教育活動の在り方や方法に進化が見られる。その機能を生かした指導の改善を進めていくことは、今年度の学校経営の大きな重点である。令和5年度の学校経営の基本方針として、以下を共通理解していきたい。

学習指導においては、振り返り（リフレクション）の活用を通して主体的に学習に取り組む態度を育むことで学力の一層の定着を図る。主体的に学習に取り組むために、授業における狙いと振り返りの内容を明確にする。これにより、教師は指導と評価を一体化させることができる。ICT活用は、授業者の積極的な研修とともに、先進的な活用事例を取り入れ、活用を日常的なものとする中で指導改善を図っていく。

健全育成においては、生徒一人一人を認め・褒めることを基本とし、学級経営や生徒指導、教育相談の充実を図ることが重要な課題である。特に、不登校生徒、障害のある生徒、海外から帰国等した生徒、日本語の習得に困難のある生徒等の特別な配慮を必要とする生徒には、保護者や関係機関と積極的に連携を図り、個に応じた支援を図っていく。また、学校評価の結果を踏まえ、生徒の自主性・主体性を育み自己指導能力を高める観点から、生活のきまりの見直しを生徒会との連携を図りながら進める。生徒に成功体験させることで自己有用感を育ませ、自信をもたせることから自尊心を高める指導を進める。生徒一人一人が胸を張って将来を語るができるよう、保護者・地域及び関係機関のご支援・ご協力を頂きながら、生徒の大きな成長を促す。

なお、設置から3年目を迎える特別支援教室は、特別支援教室専門員を要し、適切な運営を図っていく。